



# シェイクハンド

第75号  
R7.9

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

なやみは半分、よろこび倍増

さあ みんなで手をつなごう!!

## 住まいを訪ねて看護することの大切さ

静岡県健康福祉部感染症管理センター長 兼 富士保健所長 後藤 幹生



みなさん、こんにちは、静岡県健康福祉部の後藤幹生です。新型コロナ対応の頃はたいへんお世話になりました。コロナがインフルエンザと同じ五類感染症になって、はや2年が経ちました。コロナは毎年夏と冬には流行しますが、世間もみなさんも、コロナ前の日常にほぼ戻っていることと思い、うれしく感じています。

わたしも、日々の記者会見（計約380回）等のコロナ関係業務を解かれ、ウグイスさえずる三島市谷田の感染症管理センターで、感染症の県HPの一新、感染対策に強い福祉人材の育成、次のパンデミックの準備等をしています。この5月には十数年ぶりに富士保健所にも還ってきて地域保健の仕事も再開したところ です。

今回、みなさんの広報誌への寄稿依頼をいただき、最新の「訪問看護ステーション実態調査報告書」と「訪問看護利用者満足度調査報告書」を拝見しました。後者のアンケートの自由記述欄は、コロナ禍中に訪問看護師さんの対応で命が救われた、たいへん有り難かった、という声であふれていました。静岡県は、コロナ感染者の人口あたりの死亡者数が、少ない方から5番目の県です（2020年～23年5月の累計で人口1万人あたりの死亡者数が本県は約4人、全国平均は約6人）。県民のみなさんのできるかぎりの感染対策と、医療関係者のみなさんの御尽力のおかげだと思います。改めて感謝申し上げます。

ちょっと唐突ですが、わたしのこれまでの仕事での「訪問」についてお話します。大学生の頃、数人の中高生のお宅で家庭教師をしていました。マンガの本もよく貸してもらいましたが、勉強部

屋の様子や本棚の参考書を眺めながら、勉強の仕方を具体的に教えることができた気がします。

医者になってからは、静岡市の病院にいた平成の初め、よく発作を起こす喘息の子の家に行き、絨毯や布団のダニを減らす掃除を実演しました。21世紀目前、島田市の病院では、看護師さんと軽自動車でNICUを退院した子の家を毎月訪問し、予防接種をしたりお姉ちゃんと話したりしました。臨床を辞める前、岸和田市の病院では、長期脳死の子が家に戻った後も、訪問診療をお願いした診療所の先生や訪問看護師さん、介護士さんと一緒に会いに行っていました。

訪問看護を受ける側としては、2020年2月末に母は隣県の施設で亡くなりましたが、その数か月前から、調子が悪くなるたびに訪問看護師さんから丁寧な説明の電話をいただきました。わたしはクルーズ船内のコロナ患者さんを県内の感染症指定医療機関で受けていただく調整をしている最中でしたが、適切な処置と連絡をしていただき、駆けつけて母を看取することができました。

小児科医でしたので、NICUを出られずに母に抱かれて亡くなる子、1歳の誕生日前に家族に囲まれて亡くなる子を診てきました。親御さんから「どうしてこの子の人生はこんなに短いのですか」と問われることもありましたが、「お子さんは精いっぱい生きたのですから決して短くないですよ」とわたしは返してきました。住まいで精いっぱい生きている患者さんとその家族のもとを訪れて、どうか、みなさんの精いっぱいの看護をこれからも提供し続けてください。応援しています。



## 令和7年度 通常総会

一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会の令和7年度通常総会は、6月28日（土）に静岡県総合研修所もくせい会館にて開催されました。会員数は274事業所で、うち出席は114事業所、委任状は118事業所で、会員の過半数の出席をもって総会は成立致しました。皆様のご協力にお礼申し上げます。

総会では次の報告と議案が提案され、可決・承認されましたので、ご報告致します。

1. 令和6年度事業報告・決算報告
2. 令和6年度監査報告
3. 令和7年度一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会理事
4. 令和7年度事業計画・予算

### 【令和7年度・8年度 一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会役員紹介】

|       |       |                          |
|-------|-------|--------------------------|
| 会 長   | 松本志保子 | 公益社団法人 静岡県看護協会 会長        |
| 副 会 長 | 多田みゆき | 看護リハビリケアステーションひより 部長     |
| 副 会 長 | 福地 康紀 | 一般社団法人 静岡県医師会 副会長        |
| 理 事   | 長岡 深雪 | 一般社団法人 焼津市医師会 理事         |
| 理 事   | 眞野ゆうき | 三島市医師会訪問看護ステーション 所長      |
| 理 事   | 山田 裕子 | 訪問看護ステーション梅名の里 所長        |
| 理 事   | 小風 彩子 | 在宅リハビリ訪問看護ステーション春 所長     |
| 理 事   | 野村万里江 | 共立蒲原総合病院訪問看護ステーション 所長    |
| 理 事   | 松岡 有子 | さくらんぼ訪問看護ステーション 所長       |
| 理 事   | 吉口久美子 | ニチイケアセンター焼津訪問看護ステーション 所長 |
| 理 事   | 丸山久美子 | 曲金訪問看護ステーション 所長          |
| 理 事   | 秋本 芳美 | 訪問看護ステーションボポハート 所長       |
| 理 事   | 新井 晶子 | ケアステーション明日香 所長           |
| 理 事   | 半場 公義 | 日赤訪問看護ステーション 所長          |
| 理 事   | 水野 彰子 | 訪問看護ステーション高丘 所長          |
| 理 事   | 加藤 奈津 | 伊佐見訪問看護ステーション 所長         |
| 監 事   | 金木 昌之 | 一般社団法人 三島市医師会 理事         |
| 監 事   | 中野 博美 | 公益社団法人 静岡県看護協会 常務理事      |

東部支部長 眞野ゆうき      中部支部長 松岡 有子      西部支部長 新井 晶子

広報委員      ◎半場 公義、野村万里江、吉口久美子      ◎は各委員会の委員長  
 研修委員      ◎丸山久美子、小風 彩子、水野 彰子  
 総務委員      ◎山田 裕子、秋本 芳美、加藤 奈津

事 務 局      酒井和美、望月真奈美、白鳥江里佳、山本理恵、加藤飛鳥



# 全体研修会に参加して

訪問看護ステーションおんぶ 多田 和子

テーマ：「声のもつ力～相手を想う声遣い～」

講師：上藤美紀代氏

(ヴォイス・セラピー実践研究家、絵本専門士)

開催日時：令和7年6月28日(土) 16:00～17:30

会場：静岡県総合研修所「もくせい会館」富士ホール

参加者：125名



初めまして。三島市で保健指導専門助産院『マミーケアルーム38mw』と周産期および児童精神における母子支援を行う『訪問看護ステーションおんぶ』の代表をしております。

子どものころから私は低音ボイスで、よく男の子に間違われました。最近ではエストロゲンの低下に伴い、ますます低音化していますが、男の人に見知られをする赤ちゃんから、まだ女性認定をいただけていることに安堵する日々です。

そんな私ですが、4年前からコミュニティFMで月2回、妊娠や子育てが楽しくなる情報を発信しています。スタートにあたって『イケボでもない私が声だけで情報を届けることをお許しください』という思いを込め、番組名を『助産師ただちゃんのこんな声ですみません』でお願いしました。局の担当者さんから「声に個性があるのは素敵なこと。ユーミンだって、あの声だからこそユーミンだとわかる。だからいいのです」と私の声を“個性的”とリフレーミングしてくださいました。その言葉に背中を押され、現在も楽しく続けられています(今のところ、苦情は寄せられていないようです)。だから、『声のもつ力』には人一倍敏感なのです。

上藤先生によると、日本人の8割は自分の声が嫌いだそうで、私もその中の一人です。自分の声は変えられないけれど、話し方や言葉の選び方は変えられます。同じ言葉でも、声のトーンひとつで与える印象は大きく変わってきます。生命医療倫理の4原則のひとつ『無危害の原則』に照らしても、選ぶ言葉だけでなく声のトーンによっても心に傷を与えてしまう可能性があります。声が低いからこそ、より一層気を配らねばと感じ、意識して取り組んできました。一方で、声のトーンを変えるだけで安心感も与えられるのだと気づき、『がんばろう!』と前向きな気持ちにもなれました。

さらに相手に心を開いてもらうためには『相手の方に対し、旺盛で純粋な好奇心を持つこと』『相手のエネルギーレベルに合わせること』が大切とのお話に激しく共感しました。私自身も看護学生から「コミュニケーションで気をつけていることは？」と尋ねられることがあります。その際には「相手に興味を持ち、理解し、心配すること。だから自然と言葉が出てくるし、相手の言葉遣いや話し方に合わせて表現を選んでいる」と答えてきましたが、これからは上藤先生の言葉をぜひ引用させていただきたいと思います(メモメモ・・・)。

講義冒頭の早口言葉にはついていけず、「寿限無!」と焦りながらも上藤先生の声に憧れ、癒されながら最後まで拝聴していました。自分の声が嫌いで『声のちから』の負の面ばかりに敏感でいましたが、これからはこの声だからこそできる良い方向への活用法にも目を向けていきたいと思いました。

今回配布された『リフレーミング辞典』も早速ステーションのスタッフと共有しました。リフレーミングとは言葉をポジティブに言い換えることであり、母子支援において、この『前向きな言葉選び』はとても重要だと考えます。

子育て中の親御さんは、どうしてもお子さんの“できない”部分に目が向いて不安になりがちです。状況は同じでもリフレーミングすることで見え方も変わってきます。“できない”より“できていること”に目を向けて喜びを共有する、それが親に求められる“スキル”だと私は考えています。

『喜びは声に現れる』ものです。言葉の意味がまだ分からない子どもでも、親の声のトーンから気持ちを読み取るのです。だからこそ私はこれからも『リフレーミング』と『声のもつ力』を大切にしていきたいと思っています。上藤先生、素敵なお話をありがとうございました。





# ステーション紹介

## 東部 訪問看護ステーションマリア

仲道 由美子

こんにちは、訪問看護ステーションマリアです。当ステーションは、一般財団法人神山復生会を経営母体として平成29年4月に開設され、今年で9年目をむかえました。神山復生病院には、ホスピス病棟、介護医療院をはじめとし在宅支援にも力を入れており、小規模多機能居宅介護事業所マリアの家、在宅療養支援マリア診療所があります。

復生病院の歴史は古く、明治22年にパリの外国宣教会の神父様が、家族から見捨てられ水車小屋に暮らしていたハンセン病の女性と出会ったことをきっかけに、救済を決意され病院の開設へとつながりました。病院の理念は、「キリストの愛に基づいて一人ひとりの命を大切にし、医療と福祉に献身します」とされており、ご自宅で過ごされている方々に寄り添い、その人らしく住み慣れた場所で安心して生活ができるよう、チーム連携を図りながら支援を行っております。

訪問看護のサービス提供エリアは、御殿場市・小山町・裾野市です。当ステーションの強みを活かしながら法人内の施設と連携し、地域に根差したサービスの提供に努めております。

スタッフは看護師5名で稼働し、訪問看護の仕事が好きなスタッフが切磋琢磨しながら、より良い看護を提供できるように日々研鑽に励んでおります。法人内にホスピス病棟があるため、終末期の患者の看護に関わらせていただくことが多くあります。ス

テーションの強みは、オピオイドを使用しながらご自宅で安心して過ごせるように調整ができることです。また、経験豊富な認定看護師や薬剤師、担当医への相談が迅速に行うこともできます。家族から「マリアさんに入っていていただいて本当に良かった。安心して最期まで自宅で看てあげることができました」とのお言葉をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も、お一人おひとりへ丁寧な看護を提供し、安心して過ごしていただけるよう取り組んでまいります。

次は「ゆいまる訪問看護ステーション」さんです。



## 中部 訪問看護ステーション竜南

鈴木 貴美子

こんにちは。訪問看護ステーション竜南です。

当ステーションは2019年11月、静岡市葵区竜南に開設し、2024年4月に葵区千代田へ移転しました。閑静な住宅地の奥まった場所にあるので、初めて来られる方は必ず迷ってしまうようです（笑）。

開設当初は看護師4名でのスタートでしたが、管理者の交代やスタッフの入退職など紆余曲折を経て、現在は看護師4名、PT 2名で運営しております。

看護師は全員が急性期病棟での経験があり、小児、がん、慢性期疾患等、多様な看護に対応できます。PTも総合病院や介護施設、デイ等での経験を活かし、利用者のニーズにお応えしています。それぞれの専門性を活かし、助け合いながら、和気あいあいとした雰囲気職場です。スタッフの年齢層は30代～50代と世代の違いはありますが、その違いも楽しみながら行っています。



訪問地域はステーションから30分圏内で、葵区、駿河区、清水区を訪問しています。

私たちのステーションは『ずっとお家で』を掲げ、療養中の方へのケアはもちろん、介護している家族にも気を配り、利用者と家族がどのような生活を望んでいるのか丁寧に傾聴しケアをしています。「ありがとう」「待っていたよ」といった温かい言葉が、私たちのエネルギーです。

時にはお看取りや突然のお別れもあり、家族のつらい時間を一緒に過ごすこともあります。その時間を大切に、家族の心にそっと寄り添える存在でありたいと思っています。また、回復を目指して頑張る利用者の姿に、励まされ勇気をもらうことも少なくありません。

訪問看護は利用者と家族の大切な時間を共に過ごすという特別な関わりをさせていただいていると実感しながら、感謝の気持ちを持って日々活動しています。大変な時もあるけれど訪問看護をやっている良かったなと思います。

これからも利用者や家族の笑顔をたくさん見られ

るように、そして「訪問看護ステーション竜南に来てもらってよかった」と皆様におっしゃっていただけるよう、日々頑張っていきます。

次は「訪問看護しんあい」さんです。



## 西部 聖隷訪問看護ステーション富丘

工藤 成美

こんにちは、聖隷訪問看護ステーション富丘です。2020年4月に聖隷こども園こうのとり富丘の中に開設し、6年目を迎えました。こども園の中には、かるみあ富丘という児童発達支援事業所も併設されており、3つの事業が連携しながら、地域に根差した施設となれるよう勉強会やイベントなどを開催しています。

現在、看護師9名、理学療法士1名、作業療法士1名が在籍しており、急性期病院、回復期病棟、他県での訪問看護など、様々な経験を持つスタッフが対応しています。磐田市全域、袋井市の一部を訪問エリアとして活動し、小児から高齢者まで、利用者の思いに寄り添った丁寧な対応を心がけています。

毎週行っているカンファレンスでは、それぞれの経験や知識を活かして、色々な意見を出し合い、ケア内容や看護計画の見直しを行っています。普段は一人で訪問しているため、他の看護師やリハビリ職との意見交換の場は、とても貴重で大切な時間になっています。今後はカンファレンスをさらに充実させ、より質の高い看護を提供していきたいと考え

ています。

これからも、私たち聖隷訪問看護ステーション富丘は、医療・福祉との連携を密に行い、小児から高齢者、障がいをお持ちの方まで、皆さんの「家で過ごしたい」という思いに寄り添い、家族との生活を支えていきます。

次は「聖隷訪問看護ステーション三ケ日」さんです。







酒井 和美



私は総合病院にて41年間臨床看護に従事してまいりましたが、看護師としての仕事に疲れを感じ、令和6年3月に退職し、令和7年1月に静岡県訪問看護ステーション協議会に入職しました。

退職後は家事や一人旅などを楽しみ、ゆっくりと過ごしていましたが、間もなく手持ち無沙汰となり、何か物足りなさを覚えるようになりました。ふと窓の外に目を向けると、いつも見えていたのが訪問看護ステーションの大きな看板でした。訪問看護師の方々が軽自動車で出入りする姿や、楽しそうに会話を交わしながら帰っていく様子が、次第に気になるようになりました。とはいえ私はひどい動物恐怖症で、犬・猫・鳥には近づくことすらできません。訪問看護は自分には難しいと考えていました。しかし以前、浸出液を伴う下肢浮腫で家族のケアだけでは改善されなかった皮膚科の患者様が、訪問看護が介入したことで目に見えて良くなったこと、また末期がんで在宅療養を希望された方に、退院前にカンファレンスを実施し送り出した経験などが心に浮かび、「もしかしたら、私にもまだできることがあるかもしれない」と思うようになりました。

そんな折、ハローワークにて協議会の求人を見つけました。総合病院時代のQCサークル活動の運営や、臨床試験管理センターでの研修・業務の経験が活かせるかもしれないと思い、応募を決意しました。

入職後、気が付けば週5日8時間勤務。介護保険や医療保険、加算の仕組み、電話応対、以前の記録資料から事業内容を理解すること、講師依頼や会場確保など多岐にわたる業務に追われました。電話応対に恐怖を感じ、毎晩のように会場確認の夢を見る日々、厳しい世界に飛び込んだと実感しました。事務長のご指導のもと、質問への対応方法を学び、研修会の準備や人材確保の重要性にも気づかされました。訪問看護の経験がなかったので、見学実習にも参加させていただきました。

「場所や役割が違ってても看護はどこでも同じ」。協議会は、各ステーションでは担えない部分を支援する大切な役割があります。専門知識はまだまだ不足していますが、これまでの経験や異なる視点が少しでも役に立てばと思いながら、現在も学びを続けています。

私の人生訓は「まじめにコツコツ」「為すべきことを為す」「がんばりすぎない」。

失敗やご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、皆様のご指導・ご助言をいただきながら、一歩ずつ進んでまいります。

なお、協議会の事務局は10月より新たな体制となります。

今後も訪問看護師の活動を支援する体制を整え、会員の皆様と共に在宅医療の充実に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



## 精神科訪問看護研修に参加して

聖隷訪問看護ステーション富丘 藤尾 恵津子

開催日時：令和7年4月5日(土)・19日(土)・26日(土) 全3日間

場 所：静岡県総合福祉会館シズウェル601会議室

参 加 者：51名

研修目的：①精神科疾患について理解を深める

②精神疾患を持つ人の在宅医療を支えるための制度や訪問看護師としての役割を学び、利用者の状態に応じた適切な看護サービスが提供できるよう実践能力を高める

私が訪問看護に関わり1年になります。以前は総合病院やリハビリ病院で働いており、訪問看護の現場では、先輩方に支えてもらいながら学ぶ日々です。その中でも、精神疾患のある方への関わり方に自信が持てず、不安を感じていました。今回精神科訪問看護研修の機会があり、理解を深めたく参加しました。

精神疾患は障害が目に見えないため、目に見える身体的な障害と比較すると、支援を受けにくい状況にあります。過去には『自宅監置』と呼ばれる精神疾患のある方が自宅に監禁されることを余儀なくされていた事実があったそうです。1900年代に法律が整えられ今に至りますが、その事実がそれほど前のことではないと知り、驚きました。

精神症状は流動的で波があります。生活パターンから精神症状の程度を観察し、声掛けを工夫していくことが大事だと学びました。「〇〇のように見えますが、今日の調子はどうですか？」といった問いかけにより、相手に安心して話をしてもらい、確認することも大切であると学びました。

また疾患による特徴も理解しておく必要があります。例えばうつ病は日内変動があり、一般的に午前より午後に抑うつ傾向が強く現れることが多いとされています。また統合失調症では、陽性症状、陰性症状、感情症状、攻撃症状、認知症状とさまざまな症状が絡み合い、個人によって表れ方が様々です。陽性症状は対処が必要となることがあるため病院でみられることが多いですが、意欲低下やADLの低下といった陰性症状は在宅で出会うことが多いそうです。その人に起きている症状の特徴、症状の中でも何が優位に出ているか観察し、生活習慣や成育歴、セルフケア、薬物療法などを総合的にアセスメントする必要があることを学びました。

生活をすることは、「自己選択」「自己決定」「自己責任」の繰り返しです。訪問看護では、この過程と結果を共有することで、利用者にとってよりよい生活につなげていくことを目指しています。対象と

なる利用者は、年齢も疾患もさまざまですが、本人の主体性を尊重し肯定的に関わることで、よりよい判断や選択ができるように支援していくことが大切であると学びました。

研修の中で、『リカバリー』と『ストレングス』という言葉を知りました。リカバリーとは回復を意味し、地域社会に参加しながら症状が軽減・緩和し、充実した生活を送れるようになる過程を表します。そしてストレングスとは対象者の誰もが持ち、プラスに変化させていく力を意味します。個人のストレングスに焦点を当てていくことで、その人らしさ(リカバリー)につながるとされています。私は今まで、問題に焦点を当て、問題を解決していこうという問題解決型思考で考えていく傾向がありました。つい目の前の問題に目がいきがちですが、できていることや趣味、楽しみなど、ストレングスにも気づき、それを活かしてリカバリーにつながるよう工夫していきたいと思いました。

今回の研修を通し、精神疾患をもつ方の特徴や支援の方法を学ぶことができました。最終日のグループワークでは、さまざまな意見やアセスメントを共有でき、自分では気づけなかった発見もありました。この研修での学びを活かし、利用者が必要としている看護を提供できるよう、これからも取り組んでいきたいと思っています。





## 研修のお知らせ

◆訪問看護就業セミナー 一人でも多くの方にご参加いただけるよう、積極的な周知にご協力をお願いします。

|     | 開催日         |                                        |             | 会場                   |
|-----|-------------|----------------------------------------|-------------|----------------------|
|     | 1日目         | 2日目                                    | 3日目         |                      |
| 東 部 | 10 / 17 (金) | 実習：<br>1、3日目の間で、<br>希望日に3時間<br>程度の同行訪問 | 10 / 31 (金) | 韮山文化センター時代劇場（伊豆の国市）  |
| 中 部 | 9 / 26 (金)  |                                        | 10 / 3 (金)  | 清水テルサ（静岡市清水区）        |
|     | 10 / 20 (月) |                                        | 10 / 27 (月) | あざれあ（静岡市駿河区）         |
|     | 11 / 20 (木) |                                        | 12 / 4 (木)  | ウェルシップやいづ（焼津市）       |
| 西 部 | 9 / 25 (木)  |                                        | 10 / 9 (木)  | 浜松市子育て情報センター（浜松市中央区） |
|     | 10 / 22 (水) |                                        | 11 / 5 (水)  | 中部ふくしあ研修室（掛川市）       |
|     | 11 / 26 (水) |                                        | 12 / 10 (水) | なゆた浜北（浜松市浜名区）        |

◎東部はすでに2回開催済みです。

◆経営・開設セミナー 申込締切は各日程の5日前まで。

|        | 開催日時                  | 会場            |
|--------|-----------------------|---------------|
| 経営セミナー | 11月11日(火) 10:00～16:00 | もくせい会館第5会議室   |
| 開設セミナー | 11月12日(水) 13:30～16:00 | ホテルアソシア静岡小宴会場 |

◆認知症訪問看護研修

認知症の人や家族を支えるために必要な基本知識や認知症ケアの原則、医療と介護の連携の重要性について学びます。  
申込〆切：中部は11月14日(金)、西部は10月24日(金)まで。東部は終了しました。

|     | 開催日時                 | 会場                     |
|-----|----------------------|------------------------|
| 中 部 | 12月14日(日) 9:30～16:00 | 静岡県総合社会福祉会館シズウェル103会議室 |
| 西 部 | 11月23日(日) 9:30～16:00 | クリエート浜松53会議室           |

### 編集後記

暑さの中でも変わらぬ  
優しさと笑顔を届ける皆  
さまに、心から感謝と敬  
意を払います。



### シェイクハンドNo.75

2025年9月発行

**発行所** 一般社団法人 静岡県訪問看護ステーション協議会  
〒420-0839  
静岡市葵区鷹匠3丁目6番3号  
静岡県医師会館4階  
Tel 054-297-3311  
Fax 054-297-3312  
e-mail sizuokahoumonst@cy.tnc.ne.jp

**発行人  
編集者** 松本志保子  
半場 公義（日赤訪問看護ステーション）西部  
野村万里江（共立蒲原総合病院訪問看護ステーション）東部  
吉口久美子（ニチイアセンター焼津訪問看護ステーション）中部